〃わくさん〃の里帰り

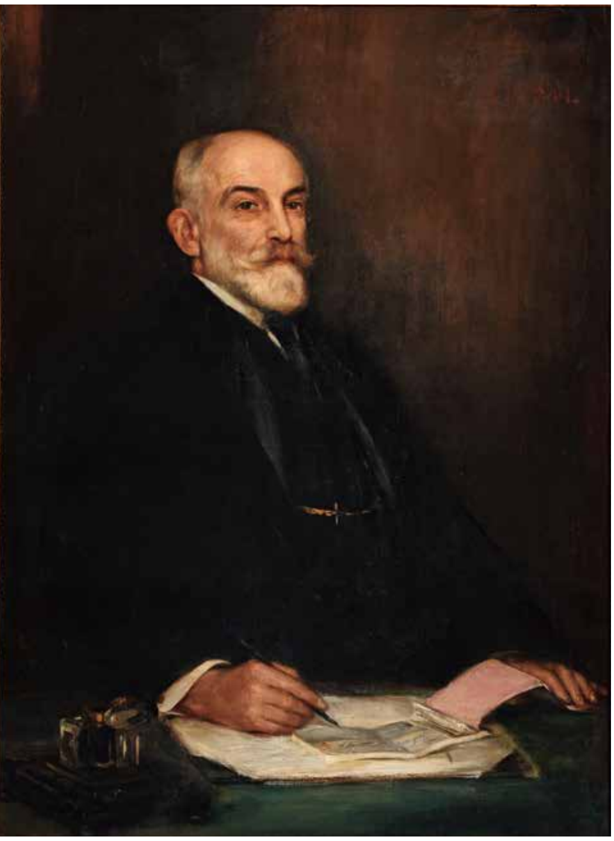
島根県立美術館ニュース

NEWS vol.109

企画展

島根から世界へ――生誕一五〇年 石橋和訓展

英国からも多数出品！島根発／初の大回顧展。


《フレデリック・ジョン・スミス肖像》1913年頃　個人蔵（英国）

《美人読詩》の画家？

前回「《美人読詩》の画家、初の大回顧展」と銘打って紹介したのを覚えているでしょうか。これは、《美人読詩》という作品が開館以来愛され続けていることを意識して付けたフレーズでしたが、実際、開館10周年（2009年）の際に行われた人気投票で堂々第2位（第1位は《宍道湖うさぎ》）となったことを思い起こせば、この作品が石橋和訓（かずのり）の代名詞として親しまれてきたことは疑いようのない事実と言えましょう。

この作品が当時破格の1000万円で購入されたのは当館前身の島根県立博物館時代の1980（昭和55）年のこと。地元では「わくんさん」と親しまれ、郷土の美術史家・桑原羊次郎の『島根県画人伝』（1935年）などで紹介されてはいたもののその作品をほとんど所蔵していなかった当時、日英両国で肖像画家として名を馳せた彼の代表作を収蔵することは悲願だったに違いありません。前述したその後の評価の高まり、また現在に至る調査研究の足掛かりとして必要な作品だったことを思えば、価格以上の価値を生み出している作品と言えるのではないでしょうか。それゆえ私はひそかにこう呼んでいます――「島根のモナ・リザ」であると。

日本画家としての和訓

とはいえ、この「美人読詩の画家」というフレーズは、石橋和訓の半分の面しか言い表していません。肖像画家、すなわち洋画家としての石橋だけを見ていてはその画業の全体像を捉えきれないのです。もともと滝和亭（たきかてい）らのもとで日本画を修めていた石橋は、その日本画を洋画の技術でアップデートしたいと考えて英国に渡りました。そこでJ・S・サージェントに学び、結果的に師と同じく肖像画家として活躍することになるのですが、けっして日本画を捨てたわけではなかったのです。

「石橋和訓（最初の帰朝時1918-19年か）」矢田清四郎関連資料（個人蔵）より

《滝に鷲（岩上の鷲）》1900〜12年　大英博物館（ウィリアム・グウィン=エヴァンス卿寄贈、アーサー・モリソン旧蔵）British Museum　1913,0501,0.430 Gift of Sir William Gwynne-Evans, Bt ©The Trustees of the British Museum. All rights reserved.

《美人読詩》1906年　島根県立美術館蔵

《大隈重信肖像》1915年頃　早稲田大学所沢キャンパス蔵
（撮影：廣瀬久哉）

今回、大英博物館より英国の日本美術愛好家アーサー・モリソン旧蔵の石橋作品が初来日しています。これらは、油彩による肖像画家として知られる石橋が、英国では日本画家としても一目置かれていたことを示す重要な作品群で、彼の画業の全体像を示すためにはどうしても欠かせないものでした。また、1905（明治38）年の年記のある《日本の桜花とヤマドリ》（表紙）、は今回新たに見つかったものですが、日本画のスタイルで描かれた滞英初期の優品として今後記憶されることでしょう。

重なる奇跡、つながるご縁

そのような日本画をはじめ英国にある石橋作品を〝里帰り〟させることが、本展では第一の目標となりました。今こうしてそれが叶っていることは奇跡と感じていますが、これ以外にも様々な奇跡によって本展は成り立っています。一例を挙げると、今回出品されている《フレデリック・ジョン・スミス肖像》は、8年前にスコットランド在住の方から石橋和訓という島根県出身の画家による肖像画を持っているのだがという問い合わせを受けたことがきっかけで知ることができたものです。これを実際に調査するにあたっては英国在住のジョーンズ百枝氏のご協力が欠かせませんでした。出雲市佐田町出身の同氏は情熱をもって同郷人である石橋の英国での足跡を調査されており、本展準備のため私が行った上記所蔵家や大英博物館、英国王立音楽大学などでの調査にも同行していただいたのです。そのおかげで重要な作品を拝借することができているわけですが、他にも展示室内でひとつひとつの作品を眺めているとたくさんのご縁がつながったことを感じずにはいられません。もしかするとそれは石橋和訓その人が多くのご縁によって人生を切り開いていたことの追体験でもあるのかもしれない、そんなふうに感じています。

〝宿願〟の展覧会

この石橋和訓という画家については、ご遺族や関係者に見守られながら、県立博物館以来様々な研究者や先輩学芸員たちが調査研究を続けてきました。本展がその蓄積の上に成り立っているのは申すまでもありませんが、その意味でまさに当館、本県にとって宿願の展覧会と言えるでしょう。今回学術協力者としてお迎えした林みちこ筑波大学准教授（松江市出身）による本展図録への寄稿文ではそのような研究史も振り返られていますので、ぜひお買い求めください。

島根から世界へ羽ばたき、洋画と日本画の〝二刀流〟で活躍した画家・石橋和訓。満を持して開催されているその初の大回顧展を、どうかお見逃しなく！

（専門学芸員　柳原一徳）

2026年
3月6日〔金〕→6月8日〔月〕

※会期中一部展示替えを行います。

開館時間　10:00〜日没後30分
（展示室への入場は日没時刻まで）
休館日　火曜日（ただし、5月5日は開館）

［観覧料］
オンラインチケット・ローソンチケット
〔企画展のみ〕
一般：1,000円、大学生：700円、小中高生：400円
当日券
〔企画展＋コレクション展セット〕
一般：1,500（1,200）円、大学生：1,130（900）円、
小中高生：500（400）円
〔企画展のみ〕
1,300（1,040）円、大学生：1,000（800）円、
小中高生：500（400）円

●オンラインチケットはホームページより、ローソンチケットはローソン各店にてお求めになれます（ローソンチケット／Lコード63398）●未就学児無料●（　）内は団体料金●小中高生の学校教育活動での観覧は無料●身体障害者手帳（障害者手帳アプリ：ミライロID）、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、被爆者健康手帳をお持ちの方、及びその付添の方は1名まで無料

主　催：島根県立美術館、日本海テレビ、山陰中央新報社、SPSしまねグループ
後　援：出雲市、出雲市教育委員会、朝日新聞松江総局、毎日新聞松江支局、読売新聞松江支局、産経新聞社、中国新聞社、新日本海新聞社、島根日日新聞社、NHK松江放送局、TSKさんいん中央テレビ、BSS山陰放送、エフエム山陰、山陰ケーブルビジョン

※特に明記されていない作品はすべて石橋和訓作

コレクション展
Shimane Art Museum Collection

展示室 4 写真

山陰と写真

4月16日［木］－7月13日［月］

森山大道《宅野》1987（昭和62）年 © Daido Moriyama Photo Foundation

山陰ゆかりの写真家と写し撮られた山陰の風景

明治期に写真術がもたらされて以降、山陰には豊かな写真文化が息づき、この地は表現の舞台となってきました。

山陰地方の風景もまた、多くの写真家のまなざしを引き寄せてきました。資生堂初代社長でもあった福原信三はモダンな感性で松江を捉えました。植田正治は鳥取砂丘を自身の劇場として被写体を演出し、さまざまな実験を試みました。森山大道は亡き父の出生地であり、自身も祖父母と幼少期を過ごした石見地方の宅野村を訪れ、写真を介して自身の記憶と向き合います。

本展では、山陰ゆかりの写真家の作品とともに、写し撮られた山陰の風景を展観します。

（学芸員　西川　瞭）

観覧料

一般　400円
大学生　260円
高校生以下　無料

○ミュージアムパスポートをご使用いただけます。
○企画展と同日に観覧の場合は半額

展示室 5 小企画

堀江友聲展の“その後”展

4月23日［木］－6月8日［月］

美術館が展覧会を開催する意義

堀江友聲（1802－1873）は島根県を代表する近世画家で、かつて当地で絶大な人気を誇りました。その友聲に関する回顧展として、当館で2019年に開催したのが「堀江友聲－京に挑んだ出雲の絵師」でした。本展は友聲に関する36年ぶりの大規模展で、県内外から多くの方が来館し、改めて友聲に注目いただく契機となりました。

このような展覧会の意義は、知る人ぞ知る画家の顕彰という側面だけではありません。本展を機に県内外から様々な情報が寄せられ、知られざる友聲作品が発見されました。それに伴い、購入や寄贈による友聲作品の収集、作品や資料の寄託も進みました。特に友聲に関する重要資料「堀江家伝来資料（*）」（約240件）の寄託により、友聲の実像が少しずつ明らかになりつつあります。（*友聲は最晩年に「堀江」から「掘江」へ改姓。）

本展では、2019年の堀江友聲展の〝その後〟における、友聲作品の収集、調査・研究の進展を紹介します。展覧の場だけではない、美術館が担う多様な役割にも注目いただければ幸いです。

（専門学芸員　大森拓士）

堀江友聲《孔雀図》島根県立美術館蔵

かつてその存在が知られていた友聲を代表する孔雀図。2019年の「友聲展」を機に所在が判明し、2024年度に当館が収蔵。

展示室1 水辺の展示室

第1期
4月15日［水］－5月25日［月］

ラウル・デュフィ《ニースの窓辺》1928年

第2期
5月27日［水］－7月6日［月］

当館の所蔵する「水を画題とする絵画」の名品を展示します。近世絵画・日本画は今年度、8期の展示、西洋絵画・洋画は通期展示（一部展示替えあり）の予定です。

ピエール・ピュヴィス・ド・シャヴァンヌ《聖ジュヌヴィエーヴの幼少期》1875年頃

第3期
7月8日［水］－8月17日［月］

展示室1 近世絵画 日本画

落合朗風《人魚》（右隻）1934（昭和9）年

第1期
4月15日［水］－5月25日［月］

当館が所蔵する江戸時代の近世絵画、近代以降の日本画より、特に当館が誇る優品、島根県出身や来遊画家の作品など、島根ゆかりの美術を紹介します。

第2期
5月27日［水］－7月6日［月］

第3期
7月8日［水］－8月17日［月］

展示室1 西洋絵画 洋画

第1期 近代洋画名品選
──島根の画家たちとともに
4月15日［水］－7月27日［月］

明治から大正、昭和まで、日本近代洋画の歩みを館蔵品でたどります。洋画黎明期の高橋由一から、黒田清輝、青木繁、岸田劉生、藤田嗣治、松本竣介など多彩な表現をお楽しみください。草光信成や矢田清四郎など島根県出身の洋画家たちも紹介します。

高橋由一《下総国野手村内裏塚真景図》1883（明治16）年

矢田清四郎《支那服の少女》1927（昭和2）年

展示室2 北斎

北斎コレクション第1期
4月15日［水］－5月18日［月］

北斎コレクション第2期
5月20日［水］－6月22日［月］

コレクション展示室2（「北斎展示室」）では、当館が誇る北斎コレクション・約1600件の中から、北斎の錦絵・摺物・版本・肉筆画、約40点をご覧いただけます（約1ヶ月ごとに全点展示替）。常に様々な分野・年代の北斎作品をご鑑賞いただける、世界的にも極めて珍しい展示室です。

北斎コレクション第3期
6月24日［水］－7月27日［月］

葛飾北斎《赤壁の曹操図》（部分）［永田コレクション］ 1847（弘化四）年（第2期展示）

展示室3 工芸

茶の湯の工芸
3月12日［木］－4月27日［月］

河井寛次郎《呉洲貼文扁壷》1959（昭和34）年頃

河井寛次郎の陶芸
4月29日［水］－6月29日［月］

安来市出身の陶芸家、河井寛次郎は常に作風を変化させ続け、時代によって全く異なる作品を生み出しました。生涯の仕事を網羅的にご紹介します。

舩木倭帆 暮らしのガラス
7月1日［水］－9月14日［月］

展示室4 写真

奈良原一高《浴場》1954-1957（昭和29-32）年
© Narahara Ikko Archives

発表から70年
奈良原一高《人間の土地》
7月16日［木］－10月19日［月］

奈良原一高《人間の土地》は、戦後の空気感を色濃く反映した写真表現として注目を集めました。発表から70年を迎える今年、あらためて本作を振り返ります。

展示室5 小企画

堀江友聲展の“その後”展
4月23日［木］－6月8日［月］

しまびコレクション×夏の自由研究 平らな面・曲がった面
6月11日［木］－9月14日［月］

「しまびコレクション×夏の自由研究」では、美術にまつわるさまざまなテーマを取り上げて紹介しています。

企画展予告

タピオ・ヴィルカラ 世界の果て

TAPIO WIRKKALA:The Sculptor of Ultima Thule

©Tapio Wirkkala Rut Bryk Foundation Collection / EMMA – Espoo Museum of Modern Art

フィンランドのモダンデザイン界で圧倒的な存在感を放つタピオ・ヴィルカラ（1915−1985）。1946年にガラス製造会社イッタラのデザインコンペ優勝を機に同社のデザイナーに起用され、以後、約40年にわたり第一線で活躍しました。その対象はガラスのほかに磁器、銀食器、宝飾品、照明、家具、紙幣、グラフィック、空間にまでおよびます。ヴィルカラは、あらゆる素材に向き合い、洗練されたフォルムを生みだしました。本展では、厳選したプロダクトとオブジェ等約300点を、ドローイング（複写）や写真とともに展示し、北欧デザインの巨匠ヴィルカラの魅力に迫ります。

6月26日［金］→8月31日［月］

開館時間　10:00〜日没後30分（展示室への入場は日没時刻まで）
休館日　火曜日（ただし、8月11日は開館）

関連企画

オープニングセレモニー 参加無料 要事前申込

日時　6月26日（金）9時40分〜（受付9時15分／約20分）
会場　ロビー
特典　記念品（代表者のみ進呈）
▼申込方法は左記をご覧ください。

記念講演会 聴講無料

「北欧デザインの基礎知識」
講師　渡部千春（東京造形大学教授）
日時　7月12日（日）14時〜（13時30分開場／約90分）
会場　ホール（190席・当日先着順）

フィンランド講座 聴講無料 要事前申込

「フィンランド文化とフィンランド人が日常で慣れ親しんでいるデザイン」
講師　ホゥフタネン・エーロ・マグヌス（邑南町国際交流員）
日時　7月4日（土）14時〜（13時30分開場／約60分）
会場　講義室（40席）
※申込方法は、当館ホームページをご確認ください。

ギャラリートーク 要企画展観覧料

日時　6月28日（日）、7月20日（月・祝）、8月22日（土）各日14時〜
会場　企画展示室

美術館キネマ 鑑賞無料

『劇場版 ムーミン谷の彗星 パペット・アニメーション』
（2010年製作／75分／フィンランド・ポーランド・オーストリア合作）
日時　8月9日（日）①10時30分〜／②14時〜（各回30分前開場）
会場　ホール（190席・当日先着順）

ロビーコンサート 鑑賞無料

「クラシックギターで聴く北欧音楽」
出演　門脇康一・門脇卓人（クラシックギター）
日時　7月26日（日）①13時〜／②15時〜（各回約30分）
会場　ロビー
※座席数に限りがある為、立見で鑑賞いただく場合がございます。予めご了承ください。

島根県立美術館×島根県立石見美術館

ふたつ見て、もらおう。 要企画展観覧料

本展と島根県立石見美術館「カイ・フランク展」（6月27日〜9月6日）の両方をご覧の方にグッズをプレゼント。企画展入口でスタンプカードを配布します。
※プレゼントが無くなり次第終了

オープニングセレモニーご招待 参加無料 要事前申込

抽選で30名様を「タピオ・ヴィルカラ 世界の果て」のオープニングセレモニーにご招待いたします。また当日抽選でテープカットにご参加いただけます。

日時　6月26日（金）9時40分〜（受付9時15分／約20分）
会場　ロビー
特典　記念品（代表者のみ1冊進呈）

申込方法
ハガキまたはFAXに必要事項をお書きの上、下記申込先にお送りください。
①お名前（ふりがな）②郵便番号・住所③電話番号 以上必須事項 ④FAX番号⑤同伴者のお名前（ふりがな）1名まで可

申込先
〔ハガキ〕〒690-0049 松江市袖師町1-5
島根県立美術館
「タピオ・ヴィルカラ」展
オープニングセレモニーご招待係
〔FAX〕0852-55-4714

申込締切　6月10日（水）当日消印有効

○申込多数の場合は抽選となります。
○お客様の個人情報は、招待状の発送（郵送）以外には利用いたしません。
○当選者の発表は招待状の発送（6月13日頃）をもってかえさせていただきます。（電話などでの個別のお問合せはできません。）

Event イベント情報

◉「石橋和訓展」関連

〈ロビーコンサート〉 鑑賞無料

リードオルガンとソプラノで聴く、明治期の英国と日本をつなぐ調べ

米山麻美

南波美穂

出演 米山麻美（リードオルガン）
南波美穂（ソプラノ）

日時 5月31日（日）
①13:00〜
②15:00〜
（各回約30分）

会場 ロビー

石橋和訓の留学したイギリスにちなんだ音楽をお届けします。

※座席数に限りがある為、立見での鑑賞になる場合がございます。予めご了承ください。

〈ワークショップ〉 参加無料 要事前申込

筆談鑑賞プログラム 肖像画を見る、書く、知る

手話通訳あり

提供：京都国立近代美術館

企画展「島根から世界へ―生誕150年 石橋和訓展」の作品を、耳の聞こえない鑑賞案内人・小笠原新也さんとともに、声を使わず紙と色鉛筆で対話しながら鑑賞します。聞こえる人も聞こえにくい人も聞こえない人も参加していただけます。手話通訳付きです。

講師 小笠原新也（耳の聞こえない鑑賞案内人）

日時 5月24日（日）14:00〜16:00（予定）

対象 聞こえる人、聞こえにくい人、聞こえない人、どなたでも（小学3年生以下は保護者同伴）

会場 アートスタジオ、コレクション展示室

ワークショップ申込方法

件名（宛名）にイベント名「筆談鑑賞」を明記の上、①氏名（ふりがな）②年齢 ③連絡先（メール）④手話通訳の希望について（希望する／希望しない）⑤参加にあたっての連絡事項やご不明点、その他スタッフに共有しておきたい事項、希望などを書き、下記アドレスへお申し込みください。

申込先 メール：sam@pref.shimane.lg.jp FAX：0852-55-4713

申込締切 5月10日（日）

参加通知 5月15日（金）頃に返信をお送りいたします。

お申し込みはこちら▼

※@pref.shimane.lg.jpを受信できるよう設定してください。※お申込多数の場合は抽選となります。
※定員に満たない場合は、締切日以降でもお申込みを受付ける場合がございます。
※お客様の個人情報は、当ワークショップの運営以外には利用いたしません。

島根県立美術館 子ども広報隊

参加無料 要事前申込

美術館で広報のお仕事体験ができます。
広報担当として、制服を着て、美術館の魅力を発見、発信する体験をしていただきます。

日時 5月17日（日）10:30〜11:30

対象 小学3・4年生

定員 3名程度

子ども広報隊申込方法

参加ご希望の方は美術館ホームページのお問い合わせフォームの各欄に必要事項を入力し、送信してください。

①氏名（フリガナ）※保護者の方の氏名を入力
②メールアドレス
③件名「子ども広報隊」
④ご意見・お問い合わせ欄
参加される児童様の「氏名（フリガナ）」、「学年・年齢」、「住所」、「電話番号（保護者の連絡先）」

お問い合わせフォーム お申し込みはこちら▶

申込締切 5月3日（日・祝）

参加通知 締切後3日以内に返信をお送りいたします。

※shimane.art-museum@sps.sgn.ne.jpを受信できるよう設定してください。
※お申込多数の場合は抽選となります。
※当日お写真を撮影し、当館の公式SNS等へ公開予定です。
※お客様の個人情報は、当選・落選の連絡以外には、利用いたしません。

かぞくの時間

毎日午前は「かぞくの時間」（10:00〜12:00）

こっころカード（アプリ）の提示で
コレクション展観覧無料
（同伴4名まで）

子どもたちにとって美術の楽しさ、芸術の喜びを分かちあえる場所となるよう、毎日午前中「かぞくの時間」を実施します。
午前中は、お子様が少し大きな声を出しても大丈夫。
どうぞごゆっくり作品観賞をお楽しみください。

関連イベント 毎月第3木曜日は

「絵本とおでかけ展示室」

絵本のお話を聞いて、お話をヒントに作品鑑賞のお散歩に出かけます。

時間 10:30〜（約40分）

集合 キッズライブラリー（先着20名程度）

料金 コレクション展観覧料
一般400円、大学生260円、小中高生無料

※こっころカード（アプリ）をお持ちでない場合は、要コレクション展観覧料

Gallery ギャラリー展示のご案内

会期	展覧会名		内容		問合せ先
4月10日(金)－5月10日(日) ※4月14日、4月21日、4月28日は休館日	世にも不思議なトリックワールド	1・2室	科学的なテーマを扱った親子向けの展示会。	有料	山陰中央新報社事業部 0852-32-3415
5月20日(水)－5月24日(日)	第63回 火曜会展	1室	火曜会の会員による油絵の作品展。		永島 080-1936-0507
5月20日(水)－5月24日(日)	第55回 松江ちぎり絵サークル 記念展	2室	松江ちぎり絵サークルの会員による工芸和紙を使った作品の展示。		森山 0852-24-6079
5月20日(水)－5月25日(月)	第74回 松江水彩画会展	3室	松江水彩画会会員の作品展。		舟木 090-4103-1658
5月27日(水)－5月31日(日)	第29回 島根日本画協会展	1室	島根日本画協会会員による日本画作品展。		米原 090-7979-0215
6月 5日(金)－6月 8日(月)	第19回 しまね写真展	1室	島根県を中心とする写真愛好家のための写真公募展。		川上 090-2801-5253
6月 3日(水)－6月 8日(月)	Kinji。が爆発 in 島根	2室	オイルパステル画の作品展示。		小林 090-2917-9084
6月14日(日)－6月21日(日) ※6月16日(火)は休館日	第134回 島根洋画展	全室	島根洋画会会員・準会員の作品と、一般から公募した作品の展示。		森井 090-2000-4717
6月26日(金)－6月29日(月)	第41回 島根書道協会展	全室	県内の会員・準会員・会友に加え一般・ヤングの書道作品を展示。		植田 0852-26-6498
7月 1日(水)－7月 6日(月)	第7回 丹青会日本画展	1室	日展、日春展の入選作品を含む、丹青会員13名による日本画展。		森脇 090-1587-7055

○開室時間は通常10:00～18:00です。ただし、最終日は撤収のため閉室時刻が早まる場合があります。○観覧料は記載のない場合は無料です。有料の場合、ミュージアムパスポートはご使用いただけません。
○ギャラリーは一般の方に貸し出ししているスペースです。展示利用をご検討の方は、美術館ギャラリー担当までご連絡ください。

湖畔のレストラン「RACINE(ラシヌ)」

「石橋和訓展」期間限定メニュー

出雲市佐田町出身の洋画家・石橋和訓にちなみ、地元の美味しい食材をアレンジをしてコースに仕上げました。
季節の食材とあわせ、春の美術鑑賞をお楽しみください。

・「石橋和訓展」期間限定メニュー……… 3,500円(税込)

［メニュー］オードブル：ブラックタイガーとあごの焼きのカダイフ揚げ
スープ：人参のスープ
メイン：本日のメイン(魚か肉のチョイス)
デザート：苺と紅茶のパウンドケーキ

■営業時間 10:00～18:00(美術館開館時間に準じます) ■レストラン電話 0852-25-6562
※状況により閉店時刻が早まる場合があります。
■ランチ〔11:00～15:00〕 ■ディナー〔17:00～〕※完全予約制

FREE

4月29日～5月11日は、**小中学生**の方は企画展「石橋和訓展」・コレクション展を**無料**でご覧いただけます。

年間パスポートのご案内

当館主催の企画展、コレクション展を何度でもご覧いただけるほか、下記の6つの特典があります。ご利用の際は、各展示室前受付でパスポートを提示してください。プレゼントとしても購入いただけます。

※ギャラリー(貸出施設)は主催者が異なるため別料金となります。

年会費 一般3,600円 大学生2,100円 小中高生900円

購入は美術館総合受付(パスポート窓口)までお越しください。

［会員特典］ **企画展・コレクション展を何度でもご鑑賞**いただけます。(購入日より1年間)

❶企画展観覧料 **半額**(同伴者2名様まで)

❷ミュージアムショップでのお買い物が **5%OFF**

❸**「美術館ニュース」や各展覧会のチラシ**をお届け(年4回)

❹提携施設を**割引料金**でご利用いただけます。
足立美術館、植田正治写真美術館、愛媛県美術館、尾道市立美術館、サントリー美術館、島根県立石見美術館、島根県立古代出雲歴史博物館、とっとり花回廊、広島県立美術館、ひろしま美術館、広島市現代美術館、水木しげる記念館、山口県立美術館、山口県立萩美術館・浦上記念館

❺レストランで **ソフトクリーム200円**

❻来館ポイント5つで **ワンドリンクサービス**

有効期限内に継続購入された場合、**無料観覧券を1枚進呈**いたします。

※有効期間末日の3ヶ月前から更新手続きができます。
(例)5月31日までが有効期限の場合、3月1日から更新手続きが可能

ミュージアムショップ Museum Shop

「石橋和訓展」関連グッズを販売

ミュージアムショップでは「石橋和訓展」開催にあわせて、公式展覧会図録(3,300円税込)を販売します。
このほか、展覧会とあわせて楽しめるオリジナルグッズなどを販売しています。
ぜひ店頭で商品をご覧ください。

オンラインショップ
https://www.sam-museumshop.shop/

最新の情報は美術館ホームページ、SNSでお知らせします。

島根県立美術館メールマガジンEニュース

配信をご希望の方は件名に「メールマガジン配信希望」と記載の上、美術館ホームページのお問い合わせフォームよりお申込みください。

島根県立美術館
〒690-0049 島根県松江市袖師町1-5
TEL0852-55-4700 FAX0852-55-4714
https://www.shimane-art-museum.jp

発行：株式会社SPSしまね 2026年4月発行 島根県立美術館ニュース109号

表紙作品：石橋和訓《日本の桜花とヤマドリ》1905年 個人蔵(英国)